

1919年Great Bostonでの糖蜜大流出

2007年5月

事故前



1919年1月15日、マサチューセッツ州ボストン市北部の人々は轟音を耳にするとともに、230万米ガロン(8700m³)の糖蜜を蓄えた高さ50フィート(15m)のタンクが突然分解し、内容物が市中に流れ込むという恐怖を目の当たりにした。糖蜜は、高さ15フィート(5 m)、幅160フィート(50 m)の大波となり街路を通り抜けた。1月だから糖蜜の動きは鈍いのではないと思うかもしれないが、この大波は推定時速35マイル(60 km/hr)で2街区以上を通過した。死者21名、負傷者150名以上、そして推定損害額は現通貨に換算して1億米ドルに相当する。

何がこのタンク損壊という惨事の原因だったのか？

調査の結果明らかになった原因の中には次のようなものがある。

このタンクは

- ・ 建設時適切に検査されていなかった
- ・ 建設後糖蜜充填までの間にテストされていなかった
- ・ 損壊前に鋼板の溶接継手からの漏れが認められていたにも拘らず何の対策も講じられなかった。

事故後



知っていた？

- 80年以上前の事故は、今日の産業とは関係ないと思うかもしれないが、今でも同じような理由で惨事を惹き起こす貯槽の損壊が起こっている。(下の写真参照)
- 液体はすべて、それが糖蜜や水のような危険性のない物質であっても、大量のものが急速に流出するときは、単にその体積と質量のゆえに危険なものとなり得る。

あなたにできること

- 漏洩・腐食・その他貯蔵タンク破損の兆候を発見した時は直ちに管理者に報告すること。
- 新設タンクあるいは修理や使用休止後再使用するタンクはすべて、充填前に適切に検査・試験されていることを確認すること。
- タンクの運転容量を確認し、充填前に液面をダブルチェックすること。
- 古い事故記録を廃棄しないこと。繰り返し読み教訓を覚えること。遠い昔の出来事から多くのことを学ぶことが出来る。



1988年1月 - Floreffe, Pennsylvania, USA
タンク破損で400万米ガロン(15,000m³)の
ジーゼル油がMonongahela Riverに流出

2000年1月 - Cincinnati, Ohio, USA
タンク破損で36万5,000ガロン(1400m³)の
液体肥料がOhio Riverに流出



過去の教訓を忘れるな！